

早稲田大学 政治経済学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	ここ数年、早大政経としてはやさしかったが、本年は一転して難化し、私大最難といわれた往時を髣髴とさせるような手ごわい問題が並んだ。また、定番化していた写真・肖像を使用した問題が全く出題されなかった。地図問題は一昨年・昨年に続き今年も出なかった。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
	貨幣とその流通	A - 1・2はアブド＝アルマリクがウマイヤ朝の君主であると思えるかどうか分かれ目。4はガレオン貿易の開始がレガスピによる(マゼランではなく)フィリピン領有(1565)であることとマカオ居住権獲得の年代1557年に注目する。B - 2は文面からカーバ神殿の外見を連想する。4はマレー連合州の経済は「ゴムとスズ(錫)」から連想する。	難
	朝鮮史	A - 1の「世界最古の雨量計」は前代未聞の出題。田柴科は現在通用している教科書には出ていない。しかし、科田法が高麗であることが判れば事実上二択で、あとは訓民正音で正解が得られる。2は加藤清正が判れば正解に近づける。3の士林は難問。朝鮮王朝を狙って準備していた受験生以外はお手上げだろう。5は一見厄介そうだが、全組ともaがトップなので、次ぎのb「大韓帝国成立(1897)」が判れば正解できる。Bの勢道政治・漢江(ハンガン)の奇跡も通常の受験準備では対応不可能。	難
	宗教史一般	A - 4の「ローマで殉教」はペテロとパウロが該当。しかしパウロはイエス刑死のあと改宗した人物。B - 3のサレルノ大学、5のケルン大聖堂は用語集の説明文に出ている。	一部難
	ヨーロッパにおける国際商業	A - 1のハンザの四大商館は、五賢帝・五本山・四書五経・四大奇書などにありがちな「～にふくまれないものはどれか？」式設問。4のフッガー家はイハプスブルク家のいわば御用商人的存在。B - 4のアンダルシア地方の都市セビリアは答えにくい。大航海関係の地図でセビリアをきちんと書き込んでいた教科書は東京書籍の世界史Bぐらいだった。	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
	19世紀のヨーロッパとアメリカ	A - 6はオリンピック関係。国際オリンピックの第1回は1896年。7は誤りを2つさえず問題だが、誤った文が3つある。イ...アフガニスタンは併合されていない。ロ...清仏戦争は第三共和政時代。ハ...北ボルネオは英領。Bは易しい。	標準
	第一次世界大戦前の「よき時代」・欧州統合	の文章がまず難解。A - 1のエドワード7世は英国王としてはかなり微妙な人物。4の国民健康法(1911)と老齢年金法(1908)は、ともにアスキス自由党内閣がとった社会政策。この内閣のときには議会法(1911)も成立している。5のホは、ヨーロッパ経済共同体(E E C)ではなくヨーロッパ共同体(E C)が正しい。6も手強い。79年の欧州通貨制度で決まったのはエキュ(E C U)。7は煩瑣だが、項目を整理するとaのI M Fが先頭は問題ないとして、2番目のdは3つ共通で問題なし。結局、3番目がbのO A P E Cの石油値上げ=第1次石油危機とcのドル=ショックの後先で決着がつく。	難

〔総合コメント〕

写真・図版・地図が全くなく、ただ活字だけが並んでいる。そして設問は同じパターンの繰り返し。なんとも単調で途中で疲労感を覚えさせられる。記述式の中には易しいものも散見されるが、正誤判定には疲れるものが多い。とくに正誤ポイントが年代にかかわるものにやりにくいものが多い。また、数は少ないものの日本史の知識がないと困難なもの(壬辰・丁酉の倭乱と加藤清正、薩摩藩の琉球支配など)がある。また、3問出題された6項目の正誤を一覧表にしたものもやりにくい。そして究めつけは年代配列問題でどれも一筋縄ではいかない。それでも、選択問題は選択肢をしぼってある程度確立の勝負に持ち込むことも可能だ。しかし、記述式で出た朝鮮関係の「勢道政治」や「漢江の奇跡」になると直接知っていなければどうにもならない。来年もこのレベルであるという前提だと、もう高い得点をとるのが不可能のように見えてくるかも知れない。しかし、難問は特定の個人にとってのみ難問であるわけではない。誰にとっても難問なのであって、かえって易しすぎて上位層と中堅層の差が出なくなるほうが本当はよくないのである。人並み以上の勉強をやった人がそれなりに報われると思って前向きにとりくみたい。教科書は無論のこと、用語集は説明文まで徹底的につつきまわして微細事項の出題に備えたい。また、「漢江の奇跡」のような語句は授業中の逸話として取り上げられることが多い。授業中のちょっとした話題が得点源になった人もいるはずである。高校・予備校にかかわらず授業中に登場する語句にも注意を払いたい。また、6項目正誤問題や年代配列問題は多大のストレスを伴う。こうしたストレス性の問題にふだんから慣れておくことも必要で、難問・奇問と揶揄されるような問題にも積極的に挑戦しておきたい。